

## だんつう 赤穂緞通140年の系譜

赤穂緞通は、佐賀の鍋島緞通、大阪の堺緞通と並び、日本三大緞通の一つに数えられています。直線、曲線を巧みに織り交ぜた独特な文様と、繊細で美しい色合いが人気の織物です。木綿の糸を使い、文様を際立たせるため、赤穂独自の技法である小さな罅での念入りな「摘み」の作業で仕上げます。また美しさだけではなく絹のような手触りも独特な赤穂緞通の織物です。

江戸時代後期、赤穂に生まれ育った児島なかさんが炬燵の櫓を機織にし、試行錯誤を繰り返しながらやっと明治7年に商品化され、皇室や政府に納入されるなど国内や海外にまで広がりましたが、昭和に入り機械化になじまない赤穂緞通は徐々に衰退していきました。この伝統工芸赤穂緞通を絶やしてはいけないと平成3年に赤穂市教育委員会が講習生を募り、たった一人残って伝統をつないでいた赤穂市御崎に在住の阪口キリ彦さんを先生に20名の生徒が集まり

ました。キリ彦さんは大正10年生まれで、11歳から稽古を始め15歳で一人前になり赤穂市御崎で初代西田新松さんが経営している西田赤穂緞通工場で、織り子として機織を織っていました。

キリ彦さんに学んだ20名の方たちも技法の講習を終了し、平成11年にはその修了生でつくる「赤穂緞通を伝承する会」が発足、個人工房でつくる「赤穂緞通生産者の会」も発足し、現在では各工房において後継者の指導に頑張っています。

「赤穂緞通生産者の会」の柳田みどりさんの坂越工房をお訪ねしました。瀬戸内を臨む高台に工房があります。工房には3人の女性が柳田さんに古典柄の一畳敷緞通の技法を学んでいます。一畳敷の緞通を織るには半年はかかるそうです。また、柳田さんから技法を学んだと言う池上和子さんは、自宅にある「赤穂緞通工房ギャラリー東浜」に柳田みどりさんの作品と共に美しい古典柄の緞通を展示

されていました。誰もが魅了される日本伝統である古典柄の緞通はモダンな工房にも、とても似合っていました。

赤穂緞通に興味のある方は、一度赤穂市に足を運んでみてはいかがでしょうか。

### 【連絡先】

- \* 「赤穂緞通を継承する会」
    - ・「加里屋工房」  
TEL 0791-45-0606
    - ・「中広工房」  
TEL 0791-43-9134
    - ・「花工房」  
TEL 090-6965-9162
  - \* 「赤穂緞通生産者の会」
    - ・「弥生工房」  
TEL 0791-56-9166
    - ・「信子工房」  
TEL 0791-43-1239
    - ・「坂越工房」  
TEL 0791-48-8937
    - ・「赤穂緞通工房ギャラリー東浜」  
TEL 0791-45-1321
- 【取材・文責：神戸八重子】



工房にて



一畳敷緞通